

里山グループ



エコファームグループ

◆ならやまの今後

福田 美伸

先日の里山研修会で講師の神戸大学大学院教授黒田慶子先生が講演の中で話された、「里山の公園化及び松林にすることは良くない」と言う指摘に私は、非常にショックを受けました。

「里山」は、はっきりとした定義はありません。昔は地主から入会権を買い、薪、山菜、きのこ、そして腐葉土を畑や田んぼの肥料に利用して、里山は非常に価値のあるところでした。人が手を入れ、しっかりと整備されておりました。ご存知の通り、昭和35年ごろからの特に、燃料革命で薪は不要となり、入会権も消滅状態、里山へ人が入らなくなり、放置されました。私たちが管理する「ならやま」は、20年前はトレッキング、散歩、バイクのためには笹がうっそうと茂り気味が悪く、誰も通っていませんでした。以前より、きれいになった現在、「ならやま」に自衛隊員も訓練だろうか通るようになりました。

地かきをしていた昔、実生のアカ松林には、松茸が沢山取れていたようです。生駒辺りを描いた江戸時代の絵図は全てが松林になっています。菌根系の植物であるアカ松は、腐葉土があると他の樹木が生え、負けて育ちません。また、放置されたアカ松林には、マツノザイセンチュウによる松ガレが発生し、アカ松の森はコナラの森、ソヨゴの森、笹藪に変わってしまいました。

「ならやま」は全国でも珍しく、奈良の中心から3~4kmのところであり、誰しものがもっと気軽に入れる、憩いの場所にするべきではないでしょうか？黒田先生の言う「公園化、松林が良くない」を「部分的公園化、部分的アカ松林他」に、さらにすすめ、私たちがリタイアした後、子や孫たちが素晴らしい「ならやま」を整備継続してくれることを、望んでやみません。

◆エコファームグループに入りました

足立 勝洋

エコファームグループの活動をいつもよこ目で眺めては、その内、畑を少しいじらせてもらいたいなと思い、今年の年初よりグループに入れてもらいました。

畑いじりは、みなさんも多少は興味をお持ちではないでしょうか。

私もそういう気持ちを持ちながらずっとその機会がありませんでした。中・高校のころ、学園の農園（東京多摩川の堤）で、芋掘りや堆肥作りに汗をかいて以来、そういう機会がなかったのです。

それで野良仕事には、殆ど無縁の私が、何をできるのかなあと、期待に胸をふくらませているところです。早速、土と肥料に関する本も購入しました。また、先日も土のpHを測定するpH計をちょっと使わせて頂き、その畑の弱酸性を確認したのでありました。こんなことももちろん初めての経験です。

さて、昨年令和2年度総会資料で同年度の活動計画を見ると、そのハイライトは、

- ・有機農法の堅持(エコファームの基本精神)
- ・各地伝統野菜の更なる積極的導入
- ・プロジェクトファームとエンジョイファームそれぞれの意味と在り様の意識化

などがありました。新年度では、また新しい計画も作成されるものと思いますが、上記ハイライトは多分引き継がれていくことでしょう。私にとって作物栽培は、新しい領域です。グループの先輩の皆さまには、何かと教を請いながら、そして、何事も目的意識をもって、課題に挑戦しつつ、楽しいファームライフを送ってみたいと思っております。

そして、他の活動グループといっても、結局いろんなところでつながって、この里山が構成されていますね。皆さまどうかよろしく！